

代表質問

緑風会 第2

〔一般質問形式①〕
松井 努
〔総括質問者〕
松永 鉄兵

〔一般質問形式②〕
石原みさ子



駐輪場

〔一般質問形式①〕
問 本市ではシルバー人材センターに駐輪場の管理を委託しているが、自然災害時でも整理員が出勤しなればならないと聞いている。そこで、自然災害時において整理員の出勤の調整はできないか。また、幼児同乗用電気自転車は重いため、駐輪場の2階に運ぶことは危険であることから、1階に優先して駐輪できないか。

答 市と同センターとの仕様書に、荒天時は両者が協議をし、業務遂行について調整できる旨の条項を明文化できるよう取り組みたい。併せて、同センターに対し、荒天時における事業者との連絡体制等の強化を依頼していく。また、現在のコロナ禍で駐輪場の利用者が減少し、スペースに若干の余裕があることから、実態把握に努め、同センターと1回使用の駐輪場において、幼児同乗用電動自転車の優先スペースを、1階部分に設置できないかを調整したいと考えている。



2階建て駐輪場 (写真:八幡第2駐輪場)

令和4年度 施政方針

問 施政方針には、本市のキャッチフレーズである「いつも新しい流れがある市川」を全職員が共有し、新しいことにも果敢に挑戦する気持ちを持って、市民サービスのさらなる向上に取り組みたいとあるが、市長はこれからのような新しい流れを作り出し、全職員でどう共有していくのか。

答 本フレーズを体現するには、市民の創造性を可能な限り引き出し、挑戦する者が好む環境づくりが必要である。その上で、組織の枠組みを超え、広く知識等を取り込むことで、社会課題の解決を行い、市民のライフスタイルを変える市政運営ができれば、社会全体を変えることに繋がると考える。また、職員が日々の仕事に斬新な手法で取り組んでいるにも関わらず、市民には伝わっておらず、職員間でも共有されていない。そのため、組織の取り組みを細かく迅速に職員間で共有し、同時に市民に伝える仕組みが必要である。

コロナ対策の今後の取り組み

〔一般質問形式②〕
問 令和4年に入ってから新型コロナウイルス感染症の新たな変異株である「オミクロン株」の感染拡大が急激に進んでおり、第5波の際よりも救急搬送が増加する等、本市の状況は悪化している。このような状況の下、市は今後、コロナ対策について、どのように取り組んでいく方針なのか。

相談を受けたが、多額の費用がかかり、防犯上の課題もあること等により再建は難しいことを説明した。一方、基礎とフェンスは撤去の必要があると認識しているため、近日撤去予定である。撤去後は、付近に設置している説明看板に市公式ウェブサイトに繋がる二次

立憲民主・社民

〔一般質問形式〕
中町 けい
〔総括質問者〕
かつまた竜大

〔一般質問形式〕
つちや正順



水道管破損による水漏れ被害

問 水道管が老朽化等により破損し水漏れ被害が発生した場合、公道、私道等の水道管本管及び水道メーターまでの供給管が破損した場合は責任を負い、それ以外は土地所有者が責任を負うことであるが、市が責任を負うようなケースはあるのか。また、水道は

教育行政 運営方針

問 令和4年度の教育行政運営方針には、国際化の進展に伴い増加している、日

答 外国から年度途中で編入し、日本語指導を必要とする児童生徒に対しては、市内小学校3校を会場として、就学前日本語指導教室を実施しており、入学後は派遣申請のあった公立幼稚園や小中学校等に通訳講師を派遣し、学習支援等を行っている。また、日本語指導を必要とする児童生徒が多く在籍する小中学校等には、県費による加配教員を配置し、ワールドクラスを設置している。3年度の同クラス設置校は、行徳小、新浜小、塩焼小、富美浜小、南新浜小、第七中、大洲中、塩浜学園の8校となっており、同クラスにはAI翻訳機も貸与し、日常的な学習支援等に活用している。

分譲マンション 実態調査

問 本市は、安全で快適な住環境づくりの施策検討の基礎資料とするため、平成12年度から5年ごとに分譲マンション実態調査を行っている。しかし、令和2年度の調査結果では、長期修繕計画を作成していないマンション管理組合が、回答のあった管理組合のうち、1割程度(12.3%)存在

答 本市は、高経年マンションの増加に関する課題や管理不全のマンションに対する取り組みが重要であると認識している。そのため、今後は、実態調査の結果を活用し、新たなマンション管理の課題を研究していくと共に、国や千葉県などが実施するセミナー等で情報

動物虐待事件

〔一般質問形式〕
問 令和3年12月5日、市川市大洲の土手沿いにて、飼い主のいない猫6匹が、腹部を切り裂かれた状態で発見されるといった残忍な動物虐待事件が発生したが、事件発生から相当の時間が経過した現在に至っても犯人逮捕には至っておらず、今後も同様の事件や場合によっては人が巻き込まれることも懸念されている。そこで、市は動物虐待の再発防止及び市民の安全対策に関して、今後どのように対応していく方針なのか。

答 市民に対して、いつまでもステイホーム、ソーシャルディスタンスということをお願いし続けるわけにはいかない。第6波を早く終わらせ、なるべく早く元通りの生活に戻るため、感染予防の基本に立ち返って、基本の予防策を徹底することに加え、感染対策と経済活動をどのように両立させるかということについて、考えていく必要がある。今後も機動的な対応を躊躇することなく行い、更には、議会との連携、市民に対する市の施策のスムーズな広報をしっかりと心がけていきたいと考えている。



ワールドクラスの授業風景

答 動物虐待の再発防止策としては、人の命が大切であると同様に、動物の命についても、その尊厳を守るという動物愛護精神の普及啓発を行っていくことと併せ、動物への虐待は犯罪であることを様々な機会を通じて周知を進めていく。また、警察や保健所といった、県の機関とも情報の共有と連携を図りながら、街の安全安心に努めていきたいと考えている。